コラム 「気づき」と「支援」のネットワーク ～おおた高齢者見守りネットワーク（愛称『みま～も』）～

「地域包括ケア」の実現のため、日本全国の地方自治体、各種団体、住民の方々は「どうやってネットワークを作っていくか」とい うことを非常に悩まれていると思う。地域に よって事情が異なるため作り方やあり方など に「これ」という正解はないが、ここでは地 域包括支援センターが核となって見事なネッ トワークを作った話を紹介しよう。

「地域包括ケア」という言葉がまだ世間で もそれほど知られていない2007（平成19） 年ごろ、その前年に東京都にある「大田区地 域包括支援センター入新井（さわやかサポー ト入新井）」のセンター長となった澤登久雄さんは悩んでいた……地域包括支援センター （以下「包括センター」）は、いわば「高齢者 のよろず相談所」であるが、当時は「何か問 題が起きたときに個別に対応する」いわば事後対応を繰り返していたおり、「本当に高齢 者が安心して暮らせるためには、事前に地域で高齢者を支えるシステムのようなものが必 要ではないか」と感じ始めていた。

そこで、澤登さんは仲間とともに「何がこの地域に必要なのか」という検討に入り2つのネットワークが必要であるという結論に達 した。1つは地域の人々が高齢者の異変に早 期に気づくための「気づきのネットワーク」であり、2つめは医療、介護、保健、福祉の 専門機関の「支援のネットワーク」である。 この2つが揃うことにより、高齢者にとって 望ましい「早期発見・早期対応」が可能になると考えたのだ。

次にこのコンセプトを元に実現に向けての 戦略を練った。「地域での見守りの重要性を 伝え」「専門機関だけでなく地域のあらゆる 関係者を巻き込む」ため、「地域づくりセミ ナー」（以下「セミナー」）を月1回「賛同し 協力してくれる企業、事業所の協賛金」で開催することとし、第1回はお披露目ということでイベントとして2008（平成20）年4 月に開催された。これが『みま～も』の船出 であった。

「地域づくりセミナー」は『みま～も』当 初からの事業で現在も継続中であり、講師は 地域の医療、介護などの専門職が担い、「住 民にお互いの異変に気づくことの大切さを 知ってもらう」よう毎回テーマを変えて開催 されている。この毎回130人ほどが参加するセミナーにより、住民の「気づき」への理 解が深まるともに、普段は何かなければ知り合うこともない地域の専門職を知ることにより、地域の住民の安心にも繋がっていると澤登さんは感じている。

『みま～も』の名を一躍有名にした「高齢 者見守りキーホルダー」は、セミナーの打ち 合わせのため集まった医療ソーシャルワーカーの「外出先で倒れて病院に救急搬送され てきても、身元を証明するものを持っていないことが多い」という一言から始まった。 キーホルダーの表には連絡先（昼間は包括センター、夜間はコールセンター）裏には登録 番号が記載されている。あらかじめ高齢者が 包括センターに住所、氏名、緊急連絡先などを登録し、何かがあったとき医療機関などが 包括センターなどに連絡し、登録番号を言えば、その登録情報がわかり連絡がつくという 仕組みだ。この仕組みは登録情報が命なので、毎年誕生月に更新することとしており、 元気なうちから包括センターとつながりを 持っていただくため、原則として包括センターに来てもらうこととしている。

2009（平成21）年の開始当初は『みま～も』独自 の取組みであったが、現在では大田区の事業 となっており（大田区で3万人以上が登録済 み）、類似の身元確認システムは全国に広がっている模様だ。 次に『みま～も』が取り組んだのは地域で の交流の「場」づくりだ。商店街が空き店舗 を改装して作った無料お休み処「アキナイ山 王亭」を借りて、2011（平成23）年4月 「みま～もステーション」という活動拠点を 開いた。うボランティアを募集した。

「みま～もサ ポーター」になるには、なんと（！）2,000 円の登録料がかかる（当然ながら活動費に充 当）。これは「お客さん」ではなく主体的に 関わってもらうための仕組みで、現在90人ほどが登録をしている。ステーションでは毎 月約15講座が開催されており、講師は地域 の専門職だけでなくサポーターが担っている ものも多く（手芸や手話ダンスなど）、
毎週 金曜日にはサポーターのおかあさん方が提供する「元気かあさんのミマモリ食堂」が開催されている。お祭りや餅つきなど商店街との 合同企画もありその活動は多彩で、地域住民 の交流だけでなく商店街の活性化にも一役 買っている。

『みま～も』の成り立ちを聞くとネット ワークづくりには相当の「熱意」が必要だ （「高齢者見守りネットワーク『みま～も』の キセキ（ライフ出版社）」という本に詳細が書かれている）。『みま～も』のノウハウについては積極的に提供することとしており、いくつかの団体では「のれん分け」され活動を 開始している。地域でネットワークを作りた いという「熱意」を持っている方は、澤登さ んに『みま～も』の話を聞いてみるのもいい かもしれない。